村長室へようこそ ／ 東白川村長のメッセージ　2020 年(令和 2 年) 7 月

雨の日や曇り空が続き、梅雨明け宣言が待ち遠しい今日この頃。今年の夏休みは短いので、その分梅雨前線には早めに退散願いたいものです。
花火、ラジオ体操、トウモロコシ、蝉時雨(せみしぐれ)、ヒマワリ、etc.…夏の季語が並ぶだけで嬉しくなるのは私だけでしょうか。

嬉しいといえば、6 月になって新型コロナウイルス感染症対策の一つとして、東京東白川クラブ・中京村人会・岐阜東白川花の木会の会員の皆様と、村外でがんばっている村出身の高校生・大学生に「ふるさと便」をお届けしましたところ、大変喜んでいただけました。
「思いがけないプレゼントが届き、東白川村の皆さんの温かい心に触れて本当に感激しました。」
そういった内容のお手紙やメール、お電話を沢山頂きました。遠く離れていても皆様と心を一つにしてコロナと闘いましょうという村の思いを届ける事ができ、大変喜ばしい事業となりました。
何よりも村人会員の皆様と強い「繋がり」ができた事業であると言えます。こうした心温まるお気持ちに接したとき、経済性とか利便性とかの物差しだけでなく、日本人を支えている「おもいやりの心」とか「絆」「縁」というものの価値をもう一度見直す必要があるのではないか、もしかしたらこうした事こそが都市と地方を結ぶ大切な要素ではないか、という思いを強く持ちました。
今後はこうした販売促進策が村にとって有効なビジネスモデルになるのではないかと考えています。

新型コロナウイルス感染症については、今のところ全国的に自粛緩和の方向に向かっており、6 月 19 日には都道府県間の移動が緩和され、「道の駅 茶の里東白川」などの交流施設にもお客様が戻ってきた感があります。
しかし、今後は第 2 波への警戒や新しい生活様式への対応が求められてきます。一方で、都市という過密からゆとりある過疎へ人やお金の流れが変わる可能性は大いにあると思われ、東白川村がその受け皿になれるかどうかの正念場だと感じています。

感染症対策だけでなく熱中症対策にも気を配りながらの生活が続きますが、皆様、健やかにお過ごしくださる事を願い“暑中お見舞い”申し上げます。

令和２年７月１日
東白川村長　今井俊郎